

教主様壹千日参謹行 境内地巡拝行御入行



關祖様奥都城にて巡拝行入行をご奉告申し上げる教主様

三山登拝を終え、八月十三日には益蘭盆をもつて、祖靈殿奉斎靈神慰靈祭並お盆花慰靈祭が斎行された。奉斎靈神慰靈祭は田中道敏教師が斎主を、お盆花慰靈祭は熊川知長教師が夫々立派に斎主を奉行された。その立場を与えてればその任を全うする姿のあることに嬉しさを感じさせて頂いた。日々には叱責叱咤の多きではあるが、やるときにはやるの力がついてきているを褒めやらねばない。

私の身上のことではあるが、此の年の二月頃より足裏、足の甲等にしびれのごと感覺の麻痺、冷たさを感じていた。首、肩の異常な凝りと身体の異常をもであった。私は何度も何度も大神に伺つたが、外出禁の掟の神許は下されなかつた。私は十年程前に足裏、甲ともに異常を感じていたが病院の苦手な私は人に強いられて診察を受く。血糖値もかなり高いことが判明し、その後改善に努力し、一日一錠の薬を頂いている。血液、尿の検査も毎月なす身上にあつた。前回の一千日行はそれなりの通院はなすも此度は通院の神許は下されぬものであつたが、身の不安もあり私は早くに医者の診断をと我が身

本年の三山登拝も何事なく無事に八月二日をもつて修めさせて頂いた。多事多難ではあつたが、大神の力強きみちびきの任に敢然遂行の鋭断であつた。そして沢山の奇蹟をもみた。身体を病魔で損ないし方々が勇んで参加されしに驚きをみた。トイレの用足を案ぜし人、宿の参籠にためらいのある人歩くにも厄介なことを抱える人たちが、皆、案することなく参行出来たことに感謝の言葉を述べおられたという。まさに願望成就の御神徳を拝受せしもの、有の唯き歎みである。

八咫鏡と太陽を
かたどつたもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

た い わ こと たま
大 和 の 言 靈
聞くことに
遠慮はいらない。
話すことには
躊躇はいらない。
(大和神典 第二之三三二言)

寸前の大き試練であつた。我が妻も案じて、「こんな状態になつてはいけない」と、医者に行くなはないでしよう」と。それを許さぬ神様はおかしいとまで断ず。世間常識では当然である。私自身もこんなに苦しんでいるのに何故にと悩みしがちであった。それでも私は覚悟をした。医者に行くに及ばずの神託が続き、手遅れになり右腕切断、足の切断となつても至仕方なしと。その如く身体障害の身上となりても布教、神事等の神明奉仕はやらねばないと意を決した。今のは苦しみも必ずや理由があるのである。新めて一切を大神に委ねさせて頂いた。そんな最中、八月一日の御神託にて、『医者にゆくがよし』との神許が下つた。本当に安堵した。先ずは内科か形成外科か皮膚科かと迷いしも田中道敏教師の不思議なる一言にて皮膚

金

を憂えしもであつた。七月二十五日に更なる異常が生じた。右腕、肘が急に腫れ上がり熱をおびて痛みがひどくなつてきた。ばい菌が入つたかと、この時もご神託を毎朝なし、医者に行かせて頂くことを願い続けた。が、すぐには神許は下されなかつた。何故に大神は許されぬか。私の神託に邪靈邪鬼が飛びこりてその如き神断を下さすのか。我が身を倒さんとする魔の障りかと。私のこれまでの霊能力をもおびやかすものであった。足の異常、右腕、肘の苦痛に身も心も悩みの日々であつたされど私は神許なき限り医者にゆく訳にはいかぬ修行の身上にありしと。自らが撻を破ることはできぬの心を強くもたねばと。これまでの霊能神断を崩すことにもなると苦悩するものであつた。私にとつて体、心、霊能力の崩壊

また一からの出直しの定めはあつた。
されど此度はそれでは足らぬ覚悟、腕
足の切斷、生命をとられても仕方なし
の覚悟をもさせて頂いた。千日回峰行
者が体動けねば自らの生命を、携行す
る短刀で断つ事と同じなりしとの厳し
きを与えられたのかもしれない。
今もこうしてペンを走らせている。
今日も五時間の書きものを余儀なくす
夜半に右腕がまた痛むものと。月内に
は、我が身を案じ下されおりし内科の
先生の元へ診断に行かねばと、御神許
賜りしにてや。今日より残されし謹行
の二八〇日、全うせねばない。何事あ
ろうともや。

令和二年八月二十日
壹千日謹行七二〇日

教
主

令和二年五月三十日成満祈念五千人の集いに向けた御祈祷を行なう。教主様は、この日をもって、大國神社境内地巡拝行に入行になられた。

参謹行第七三一日目をお迎えになりました。此の日より神様からご神命により大國神社境内地巡拝行に御入行になられた。

昨晩からの雨模様の中、随員者の藤恭子教師、島山英教師の四名を伴われ、広大な大國神社境内地に鎮座おわします摂宮末社の神々を一社御巡拝申し上げた。

巡拝行始前、教主様は御本宮大前において本行におけるご決意のほどを申された。「私の壱千日謹行も余すことなく二百七十日となりました。また、本年は教統を継承して二十五年の節目となります。私は第二代目教主の使命としてしっかりと信仰組織を構築しなければなりません。



御本宮にてご奉告申し上げる教主様

壱千日日参謹行七三一日目 巡拝行御入行

せん。その為にも、これからは私が自ら皆さんの先頭に立つて、教えを伸ばして参ります。何遍も申してお通り、私について来れる者にて必ずやり遂げます。ついて来れない者は、仕方があります。



開教社にて (社号額に光玉が顯現す)

第二十二期第一回 責任役員会

神様は、本日はあなた方四人を選びました。あなた方四人がこれからどう動けるかなのです。口先だけではなく、あなた方も覚悟を持つべきであります。あなたの方も覚悟を持ったと述べられた。

教主様の壱千日の御神行に心より感謝を申し上げ、共に祈り、満行成就と教主様の心身の健全を心からご祈念申し上げる次第です。

八月二十五日、午前八時より大國神社祖靈殿において、教主様ご臨席のもと平松総監を議長として、第二十二期第一回となる責任役員会議が開催された。

本会議においては、令和二年度前



神変社にて

期の総括と後期に向けての運営方針並びに今後の事業計画等の重要事項が審議され、全会の一致を以て承認された。



責任役員会にて重要事項が審議された



神變御下駄神業にて道ひらきを
神變御下駄神業にて道ひらきを
神變御下駄神業にて道ひらきを

神變大神は修驗道の開祖・役の行者で奈良県に生まれ幼少の頃より神童の誉れ高く長ずるに志を決し葛城山より人跡未踏の山々を越えやがて金峯山に達し種々の術を身につけられ大化革新戦乱の御代末法悪世を救済せんが為に一千日の練行にて金剛藏王大権現を感得金峯山に祀られ修驗道の基礎を築かれた。

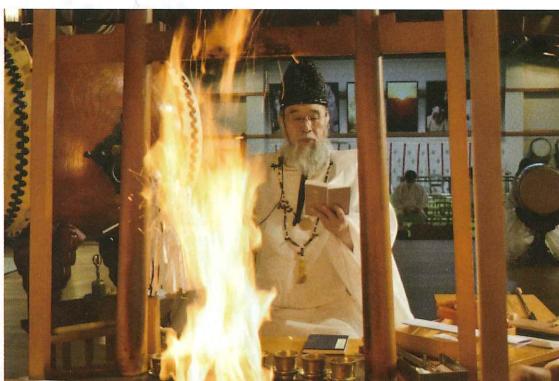
また一本足歎の高下駄にて全国の山々を踏破したとも宮城県山形県の蔵王連峰の名はその由来とも云われている

神變大神の稜威の籠りしこの御下駄に祈願せば願望成就疑いなしと称えられている



教主様は平成三十年九月一日より、
幼き子供等の生命を虐待等より救済
し、高齢者が犯罪に巻き込まれるこ
とのなき様、また、合わせて北朝鮮
による拉致被害者の救出救済を乞い
祈み奉り、壱千日の大國神社日参謹
行並びに壱千五百座の教座会、五千
人の善導救済の謹行に御入行されて
おられ、この九月十六日には教座会
参加者が六六五九名に達した。

先ず祈祷殿において、斎主教主様
が祝詞を奏上、夫々の祈願が大前に
言上げされ、心願諸願成就を祈念す
る火祭祈祷、鎮魂神事が執行された
引き続き御本殿にて壱千日謹行祈
願、並びに大市神山出羽三山参詣登
拝下山感謝奉告祭をお仕え申し上げ、
祖靈殿へと移動、日毎の祖靈万靈祭
と合わせて、大市神山出羽三山参詣



月始祈願祭火祭祈祷を執行される教主様

八月五日、午前五時より大國神社
祈禱殿において、斎主教主様のもと
教主様壹千日謹行第七〇五日・月始
祈願祭・三山参詣登拝下山感謝奉告
祭が厳修された。

教主様壹千日壹千座の謹行
千五百座の教座善導救済の奉謝行

慰靈祭を斎行申し上げた。

結びの教座会において教主様は、「本日斎行申し上げました祭儀は、開祖様が私たちに授けて下された儀式、月始祈願祭と申します。当時、開祖様は神光殿で、午前四時から執行なされました。特別の信者さん方のご祈祷は午前三時頃から行つておりました。天地の動き、神氣に抱かれながら、開祖様はそうしてやり続けて参りました。

五台位をまとめた荒井十郎さんという方がおりました。八嶋はな子さんもそのグループに入っていたのでしょうか。バスは仙台駅から宇那彌神社迄しか来ておりませんでしたから、荒井さんはそこから道具を持って歩いて、そうしてご奉仕を下されました。御山に何日間も参籠して、本当に一所懸命ご奉仕を下さいました。こうした方々のご恩がある御山なのです。開祖様も神変様がお授け下された御山に水が無いということはありません。そこでおられました。そして御神託をすると、「ここから乾の方角に湧水があるから部落の長老さんに訊ねてみよ。」とご神命が下りました。武田先生が部落の住民に聞き始めると、そういうえば家のお爺さんが何か言つていました。「とか、そんな声が聞こえて参りました。そ

大和の教信奉者は
五人善導の奉謝行を
実践致します。

で井戸を掘つても湧いてきません。部落の人等は掘つても赤水ですから達磨ストーブにやかんをかけて冷まして飲んでおりました。武田先生という方、開祖様の片腕の方です。その方と私は部落の一軒一軒を回つてよくお茶飲みをしておりました。この山は神変様のお導きです。神変様が「錦町から乾の方に八里程のところに奥山がある」と申された訳です。信者の奥山さんという方が部落の人等に働きかけて土地を授けて下されました。私も関わりながら土地を増やしていました。しかし、水が無いのです。雨水をドラム缶に溜めてそれでご飯を炊いたりお風呂を沸かしたりしておりました。そうやつてこの御山の歴史が始まったのです。何もない所から開墾して来たのです。当時、出羽三山登拝のバス四台、

平成十五年に神上がられて、翌年には參集殿の裏山にカタクリ草を発見致しました。植物に造詣の深い山野草愛好家が山桜の調査に入り偶然見つけたのです。そして、切り拓いて参りました。今や市民の憩いの場所として山野草公園として皆さんに喜んで頂いております。最初の散策路を杜の小径、六千坪位を整備し、もう一徑路を奥の方に切り開いて、奥の小径と名付けました。一万坪位でしょうか。百種類程の山野草が咲き継がれる御山なのです。学術的にも貴重な里山として認められています。この御山は宝の山なのです。心願の叶う御山です。この御山に来て摂宮末社の神様を拝むだけで、巡るだけでも心願は叶います。身体も丈夫になります。そういう信仰的な御山です。それをこれから教師の皆さん、信者

何時の間にか杉とか松とか
自生し、何故かしら森が
出来て参りました。今の
時期、新緑が綺麗に輝い
ております。神様がこう
して鎮守森を授けて下さ
れたのです。正に奇蹟を
呼ぶ御山です。開祖様が
えといふもの、素晴らしい
頂き、それをどうやって守
いうことです。どうすれば
のにするかなのです。教師

この御山は亜炭層で土が悪い
しか生えておりませんでし
枯れて裸山となつておりま
土質で土が悪く、何とか森
いと早くに成長する樹木は
試行錯誤で種々植えました
く育ちませんでした。しか
のには手は差し伸べません。教師職
員たちは今、本当の努力の仕方を理
解しておりません。だから、それな
りには働いているものの迷走をして
おります。しつかりと中心を捉えて
進むことが出来たら、一時伸び、
そして栄えるでしょう。大和の御教

実際にその所に行つてみると
美麗な湧水が見つかりました。
簡易水道組合を作つて、整
その水を今でも部落の人等
使っております。私たちは
貴重な水を頂いております。
貢を検査するとカルシウム
鉱泉水でした。普通の水で
せん。栄養化の高い鉱泉水
たちが使わせてもらうお風
湯と言われる由縁でもあり
ません。直ぐに
とでしよう。こ
は願望成就の御
ます。そうして
立を致します。
わりました。今
山に行くためだ
ありません。皆
方を指導して下
必ず救われるの

く広めなくてはなり
御山大繁盛となるこ
れからはこの大市山
山、大市神山と称え
夏の出羽三山にも出
本年、大きな撻が麥
までのような出羽三
けの出発の起点では
さんはそういう考え
さい。御山に来れば
です。

謹行参列者
教座会出席者

願望成就の道ひらき

大市神山出羽三山参詣登拝

萬人講のご案内

平成の御代替りて令和二年を迎えしどき
本教 出羽三山登拝行事は 大神の大御心にて
“ 心願の叶う御山 ” と
称えられし 大市神山参詣と

出羽三山登拝が一体化され願望成就の神行と
神化されました

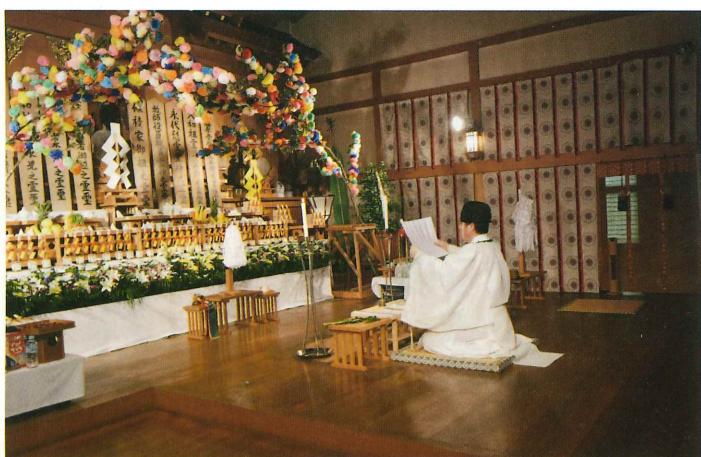
この機を迎え 改めまして萬人講の組織構築
を推進させて頂くこととなりました

講員の特典も種々ございますので奮ってご参加
下されますようご案内申し上げます

大市神山出羽三山参詣登拝萬人講事務局

事務局長 原海祐良 022-214-0808
事務局次長 福内政 (タイワトラベル内)

大市神山出羽三山参詣登拝萬人講事務局
事務局長 福原祐 022-214-0808
事務局次長 内海政良 (タイワトラベル内)

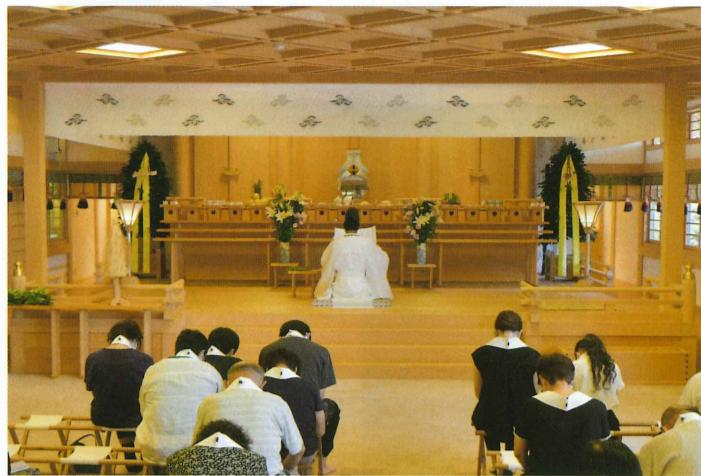


上秦祝詞齋祭靈慰花盆お

祭儀部次長のもとお盆花慰靈祭が執行された。奉製花にて美しく飾られた大床祭壇には、海川山野の種々の神饌物、季節の花々が真心込めてお供えされた。儀式は先ず降靈之儀が行われ、続く献灯之儀では参列者自らが燈明を奉持し御神前へと進み、灯を申し上げた。斎主熊川祭儀部次長により、お盆花慰靈祭詞、日蓮宗関縁淨靈安鎮祭詞、万靈拝詞が奏上された。次に祓麻神淨、火水神淨、御鉢神淨のお清めが順に執り行われ、参列者による玉串奉奠、昇靈之儀をもつて祭儀は厳肅な中で修められた。

御靈の安鎮を願いて

お盆を迎えた八月十三日、祖靈殿奉斎靈神慰靈祭並びにお盆花冠靈祭、併せて日蓮宗開祖靈殿と祈祷殿において斎行された。午前十時、先ず祖靈殿にて、祖靈殿奉斎靈神慰靈祭が斎主田中道敏教化部次長のもと執り行われ、祖靈殿に奉鎮されし、永代奉斎之靈神、美豆子之御靈、教信奉者関縁之御靈の全てに慰靈の誠が捧げられた。引き続き、午前十二時より祈祷殿へと斎場を移し、斎主熊川知長



上祝詞祭齋主靈慰神靈斎奉殿靈祖

身延山参拝行

八月二十六日と二十七日の二日間に亘り、昨年に続き、日蓮宗總本山身延山久遠寺参拝行が参行者十九名を集えて行修された。

大國神社へ集合した一同は、御本宮にて出立奉告祭を申し修め、教主様よりのお言葉に見送られ貸切バスにて出立した。午後三時、身延山に到着した一行は先ず山頂にある奥之院思親閣を参拝申し上げた。

本年は別當佐藤順行先生のもとご開帳を賜り、ご丁重なるご挨拶を頂いた。その中で、佐藤先生は、「コロナ禍の中、遠方よりご参拝頂き、講中は殆ど参拝を控えている為さぞや御仏様もお喜びでしょう。機会があれば、是非仙台の方にもお伺いをさせて頂き、大國神社様にも参拝をさせて頂ければと思ひます。」との温かなお言葉を下された。

山頂一帯は素晴らしい晴天に恵まれ、身延山ロープウェイの中からの



身延山久遠寺にての記念撮影

眺望絶景七分間の空中散歩を
楽しんだ。

奥之院思親閣とは、日蓮聖人
が身延山にご隠棲の九年間、
風雨厭わず山頂へ登られ、故
郷の房州小湊を拝し、ご両親
様お師匠様をお慕いなされた
故事に因んで建てられたお堂
である。

参拝の後、一行は久遠寺門
前の田中屋旅館に宿をとり、
和やかな直会を催した。

翌朝午前五時半より本堂と
祖師堂にて朝のお勤めに参列
し、仏殿にて先祖、前世の供
養を修めた。

宿での朝食を頂き、身延の
里を後にした一行は、千数百
年の歴史を持つ富士山信仰の
御靈地富士山小御嶽神社に参

拝を申し上げ、一路大市神山へと帰山した。
帰山後、御本殿においてそれぞれが感謝の玉串を奉奠させて頂き、帰路へと着いた。
教信奉者の中にも日蓮宗との深いご縁を頂いている方々も大勢おられ、開祖様がその因縁解除を図つてこられたという日蓮宗總本山参拝の大変意義ある参拝行復活二年目となつた。
来年以降も引き続き執り行う予定でございますので皆様におかれましても是非ともご縁を頂き、本参拝行への参行を願うものでございます。

お子さまの健やかな
お祈り申します。

七五三

七五三は三歳の髪置、
五歳の袴着、七歳の
帯解とお子様の大切な
人生儀礼でございます。

ご祈祷は御本殿にて
お受けいただき、御神札、
御守り、千歳飴等をお授けい
します。

また、本殿前で記念のお写
が撮れますよう常時写真台設
いたしております。

ご祈祷は事前ご予約をいた
ければ幸いに存じます。

是非、七五三詣は大國神社
お受けください。